

11. 問題場面

子供が活動している場面で、活動の見通しがもてなかったり、材料や道具が見つからなかったり、自分が考えているようにできなかったりして活動が停滞してしまうことがあります。「問題場面」にぶつかっている状態になっているのです。

問題場面とは

生活科において、問題場面とは、活動への意欲はもっていても、活動が先に進まなくなっている場面のことを言う。

具体的には、

- ・活動の最終目的はわかっているが、そこまでの見通しがつかめない。
「作り方が分からない」「調べ方が分からない」「どのようにまとめたらいいのか分からない」など
- ・活動の仕方は分かるが、材料や道具が不足しているために進めない。
- ・活動の仕方が分かり、材料や道具も整っているが、技能が不足しているために進めない。

などが考えられる。

問題場面の現れは、子供によって違いがある。同じ場に会っても、問題場面となる子とならない子がいる。したがって、教師側の支援も個々の子供に応じてしていく必要がある。

実践から

「おもちゃ作り」を例にとって考えてみます。A君にとっての問題場面は、どんなおもちゃを作っていくのかわからないということでした。B君にとっての問題場面は、おもちゃの材料がどうにも足りないということでした。また、C君にとっての問題場面は、作ったおもちゃがうまく動かないということでした。このように、一言で問題場面といっても、個によって問題になり得る事象が違うということです。そこで、教師は、一人一人の活動がうまくいっているか、もしくは、問題場面にぶつかっているかどうかをよく見極め、助言したり、示唆したり、援助したり、一緒に活動したりといった個に応じた支援をしていく必要があります。